

中宮中だより

No. 4

令和元年（2019年）6月25日

枚方市立中宮中学校

校長 鶴島 茂樹

命どう宝 (いのちこそ宝)

沖縄慰霊の日(6月23日) 追悼式にて「本当の幸せ」の朗読より

青くきれいな海
この海は
どんな景色を見たのだろうか
爆弾が何発も打ちこまれ
ほのおで包まれた町
そんな沖縄を見たのではないだろうか

緑あふれる大地
この大地は
どんな声を聞いたのだろうか
けたたましい爆音
泣き叫ぶ幼子
兵士の声や銃声が入り乱れた戦場
そんな沖縄を聞いたのだろうか

青く澄みわたる空
この空は
どんなことを思ったのだろうか
緑が消え町が消え希望の光を失った島
体が震え心も震えた
いくつもの尊い命が奪われたことを知り
そんな沖縄に戻したのだろうか

平成時代
私はこの世に生まれた
青くきれいな海
緑あふれる大地
青く澄みわたる空しか知らない私
海や大地や空が七十四年前

何を見て
何を聞き
何を思ったのか
知らない世代が増えている
体験したことはなくとも
戦争の悲さんさを
決して繰り返してはいけないことを
伝え継いでいくことは
今に生きる私たちの使命だ
二度と悲しい涙を流さないために
この島がこの国がこの世界が
幸せであるように

お金持ちになることや
有名になることが
幸せではない
家族と友達と笑い合える毎日こそが
本当の幸せだ
未来に夢を持つことこそが
最高の幸せだ

「命どう宝」
生きているから笑い合える
生きているから未来がある

令和時代
明日への希望を願う新しい時代が始まった
この幸せをいつまでも

平和の詩「本当の幸せ」全文

これは、毎年6月23日に行われる沖縄慰霊の日、今年、地元の小学校6年生が朗読したものです。太平洋戦争末期、「本土」の盾とされ、10代の少年少女まで駆り出され、凄惨な地上戦が展開された沖縄戦。日本人の死者は19万人近く、うち9万人以上が民間人だったといいます。集団自決もありました……

今なおその悲しみは消えず、なおかつ基地問題に振り回されている沖縄。その追悼式で、6年生の少女は一文一文をしっかりと読み、「これからも平和のために自分がどういう行動をしていけるか常に考えていきたい」と語ったそうです。（「詩」含め6月24日付け毎日新聞朝刊より）

沖縄で何があったのか、今何が起きているのか、みなさんもこの機会に勉強し、考えてみてください。